

平成27年3月25日(水)

老球の細道131号

新渡戸稲造の『武士道』を知っているか

会津バスケットボール協会理事長 室井 富 仁

退職したおかげで今まで見ることのなかったNHK朝ドラマの「マッさん」を見ている。ニッカウキスキーの創始者の物語であるが、ここにも会津人が登場する。1 昨年は「八重の桜」で会津ブームが起きたが、まだまだ会津の歴史的な話題はこと欠かないようである。

数年前、高校生のための文化講演会で小説家・清水義範氏の『歴史を学ぶ意味』を聴くことができた。特に会津の歴史については、会津松平藩祖と言われる保科正之生誕400周年ということもあり、グッドタイミングの話であった。さらに欲を言えば、関ヶ原の戦い、戊申の役などにおける会津藩が果たした全国レベルでの戦いを強調してほしい。

会津人は視野が狭く、内向きであると言われるが、とんでもない、昔の会津人は全国レベルでの戦いを平気にこなしていたのである(負けてはいるが)。だから、現代に生きる我々も会津でなんぼのものではなく、常に全国レベルに視野を向けなければならない。

講演で清水氏は、世界の民族の教養として、ヨーロッパ人には「聖書」「ギリシャ神話」がある。アラブ、中近東の国々の人々にはイスラム教「コーラン」がある。では、日本人の共通の教養は何かと問われたら「日本史」をあげると言っていた。

この話を聞いて、思わず同じような話を思い出してしまった。旧5000円札のおじさん新渡戸稲造の話である。新渡戸稲造とは、1862年南部藩士の子として生まれ、東京帝国大学に入学、その後アメリカに留学。帰国後、札幌農学校教授、東京女子大学学長などを歴任し、国際連盟事務局次長まで務めた人物である。東京帝大に入学した時、教授に「太平洋の橋になりたい」という壮大な抱負を述べ、それを本当に実現させたしまった。

その新渡戸がアメリカに留学している頃、ベルギーの高名な法学者、ド・ラブレー氏に「日本の学校では宗教教育がないということですが、道徳教育はどうやって授けられるのですか」と質問され即答できなかつたという。西洋ではキリスト教があり、日本人には正しい生き方を教え諭す共通の思想、哲学がなかつたからである。

そのことがきっかけになり、自ら10年の歳月を経て『武士道』を著し、世界に日本人の生き方と考え方を紹介したのである。武士道を語りながら、キリスト教をはじめ古今東西の思想や文学作品を引用してまとめあげた。武士道の本質の普遍性を日本人のみならず西洋の人々にも理解してもらうためだという。その教養と博識には驚嘆させられる。

武士道とは一言にすれば、武人階級の高貴な身分に伴う義務のことで、今風にして言えば、エリートとはどうあるべきかということか。

「本当の意味のエリートとは、自分のことは二の次にして、まず社会に貢献する必要があるという自覚を持って、公共のために生きる者のことである」

武士道の思想を支える土台は、「智」、「仁」、「勇」である。「智」とは「叡智」のことであり、知識と行動が一致するという。「仁」とは他人に対する思いやり、慈しみであり、ちなみに私の名前についている文字であるが、名前負けで恥ずかしい。「勇」とは勇気のことで、勇気とは正しいことをすること。イギリスでも少年トム・ブラウン曰く、「小さな子を決していじめず、大きな子に背を向けなかつた奴という名を残したい」。

自分の生き方、指導に迷った時、新渡戸稲造『武士道』をひもといてほしい。